

米エヌビディア決算で生成AI需要の強さを確認



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米エヌビディア決算は市場予想上回る

主要な半導体関連銘柄で構成するSOX（フィデリティ半導体株指数）が再び戻り歩調にあり、21年につけた最高値を目指す動きとなっているなど、半導体関連株を見直す動きが強まっています。

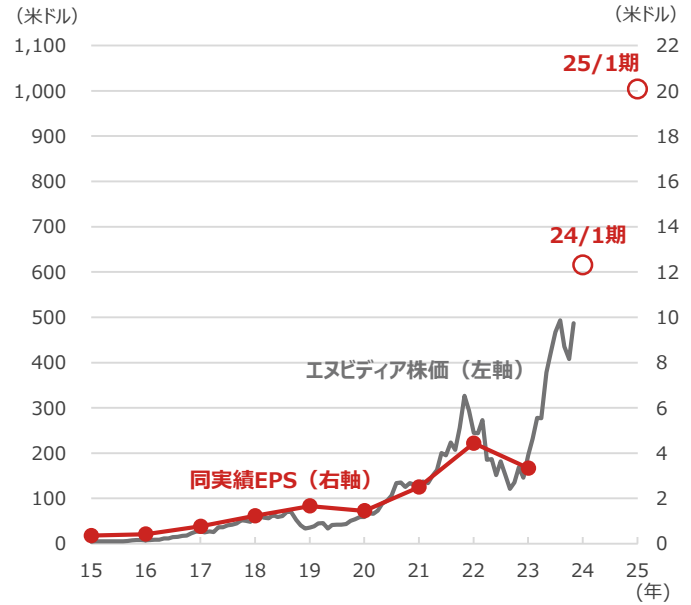
最近のSOXの上昇の背景には半導体市場の成長性の強さに対する投資家の期待が改めて高まっているとみられます。21日に決算発表を行なった米半導体大手エヌビディアの23年8-10月期の業績は、売上が前年同期比約3倍の181.2億米ドルと過去最高となりました。同時に発表した23年11月-24年1月期の売上高見通しは200億米ドル前後と、市場予想（179億米ドル）を上回るなど、同社の力強い業績の伸びは今後も続くようです。

ポイント② 生成AI市場拡大持続が焦点に

米エヌビディアの決算内容は良好だったものの、同社が米国の対中輸出規制に対し懸念を示したことが嫌気され、22日に同社の株価は下落しました。もっとも、今回の決算を受けて、市場が予想する25年1月期の予想EPSは大きく引き上げられており（右上図）、同EPSを基にした予想PER（株価収益率）は24倍程度と近年でみて低水準にとどまります。

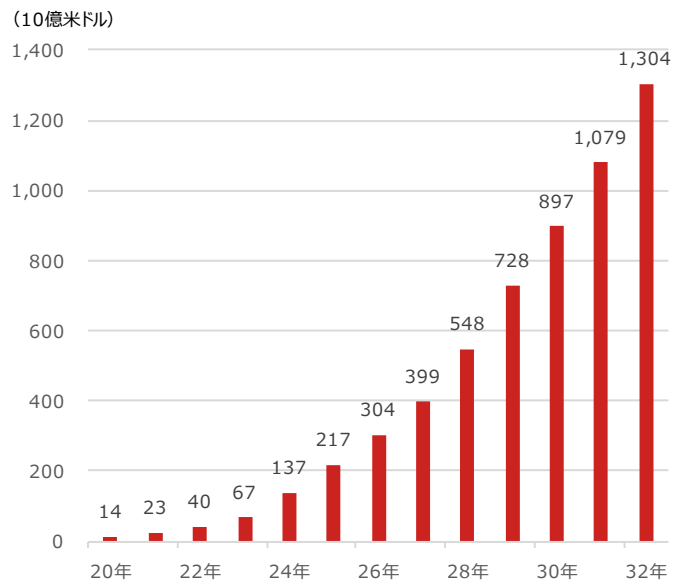
BI（ブルームバーグ・インテリジェンス）によると、オープンAIの「ChatGPT」など、消費者向けAIツールの普及によって、生成AI市場は32年までに売上高ベースで1.3兆米ドル規模と、昨年の400億米ドルから30倍超に成長する見通しです（右下図）。今回のエヌビディアの決算では生成AI需要の強さが確認できたといえます。今後はこうした動きが他の企業にも広がり、半導体市場が大きく拡大するかが、SOXの史上最高値更新を占う上でカギとなりそうです。

米エヌビディアの株価とEPS（1株当たり利益）



期間：（米エヌビディア株価）：2015年1月末～2023年11月22日、月次
（同実績EPS）：2015年1月期～2023年1月期、年次
・○印はEPSの2024年1月期、2025年1月期のBloomberg予想（2023年11月22日時点）（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

生成AI（人工知能）の市場規模予測



期間：2020年～2032年、年次
・市場規模予測はBloomberg Intelligence
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。